

平成29年4月21日

中国地区化学工学懇話会 会長挨拶

平成29・30年度会長
JXTGエネルギー麻里布製油所 孫正利

このたび、平成29年度、30年度の本懇話会会長を拝命いたしましたJXTGエネルギー麻里布製油所の孫でございます。会長を務めるにあたり、ひとことご挨拶申し上げます。

みなさまご存知の通り、化学工学は「なにを作るか」ではなく、「どうやって作るのか」を研究する学問であり、理論と実践を融合させることで成長してきました。

産業界では、戦後の石油化学産業の発展に貢献し、近年は、環境、材料、医療など様々な産業に広がりを見せており、環境と調和した高度産業社会の構築に重要な役割を果たすものと期待されています。

一方、教育の面から見てみると、“化学工学”を授業として存続させるものの、学科としては物質工学、プロセス工学、生物化学工学など「作る」対象を絞り込んだ大学が増え、学科や課程に“化学工学”そのものを残す大学はわずか5校となっています。

こうしたなか、本懇話会で中心的な役割を果たされている広島大学は、“化学工学”そのものを冠する課程を残す大学であり、本懇話会はその広島大学を中心に50年を超える長きにわたり、活動を続けてまいりました。

今後、時代の要請と共に産業界が進化し続けていくためには、化学工学が発展、貢献し続けることが期待されています。この観点からも、本懇話会の目的である「化学工学に関する学術および技術の発展と会員相互の親交を図る」ことがますます重要になってくると思います。

今年度も、基礎化学工学講習会、新技術交流会、セミナーなどを開催してまいります。また、化学産業等でますます重要になってきているプラントの設備管理、保全技術の勉強会として、プラント保全研究会も引き続き開催いたします。

最後になりますが、今年度もより充実した事業展開をめざし、会員・役員のみなさまとともに努力して参りたいと思いますので、ご協力をお願い申し上げます。